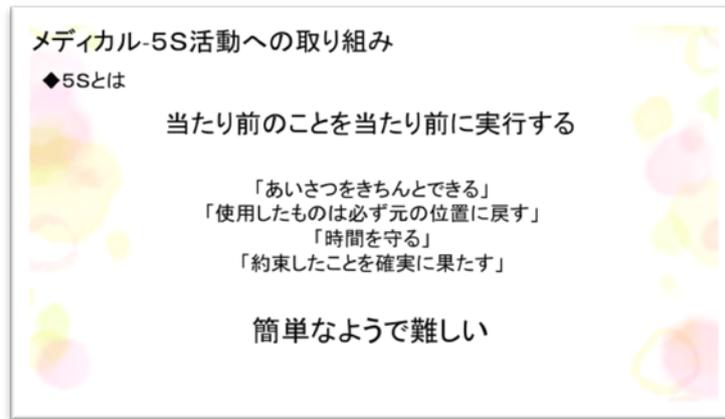


医療現場における
5 S 活動への取り組み

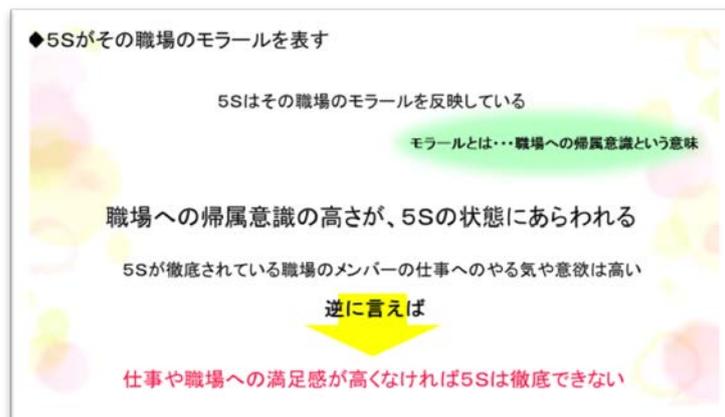
発表者用原稿



メディカル - 5 S 活動への取り組み

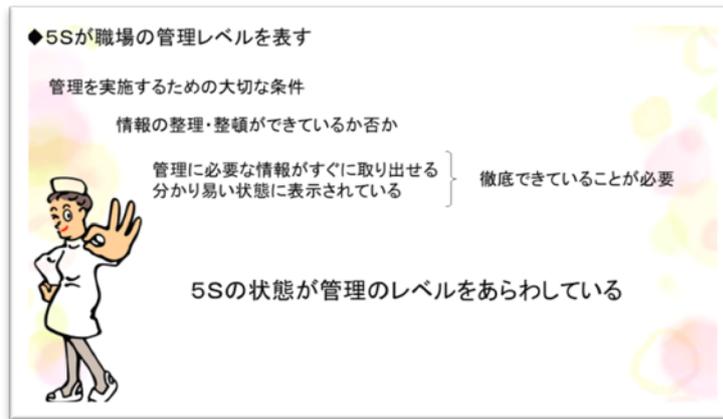
◆5 S とは、当たり前のことを当たり前に行うこと

5 S は当たり前のことを当たり前に行うことです。このことは簡単なことのように難しいことなのです。たとえば、「あいさつをきちんとできる」「使用したものは必ず元の位置に戻す」「時間を守る」「約束したことを確実に果たす」などは当たり前なことなのです。しかし、これらのことを当たり前に行うことはかなり難しいことなのです。



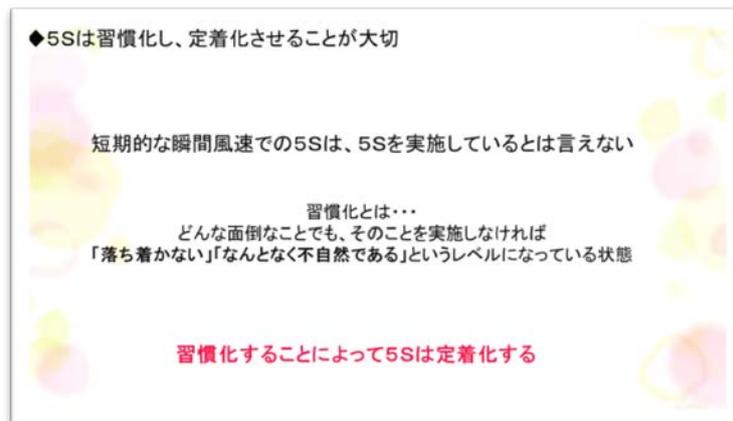
◆5 S がその職場のモラルを表す

5 S はその職場のモラルを反映しています。モラルとは職場への帰属意識という意味です。職場への帰属意識の高さが、5 S の状態にあられるものです。5 S が徹底されている職場のメンバーの仕事へのやる気や意欲は高いものなのです。逆に言えば、仕事や職場への満足感が高くなければ5 S は徹底できない、ということになります。



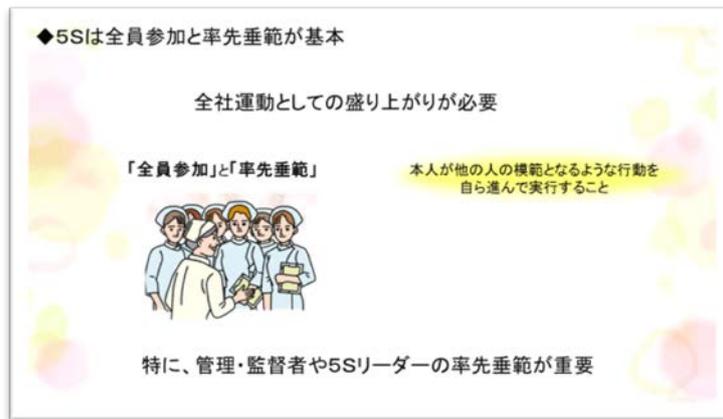
◆5 S が職場の管理レベルを表す

5 S は職場の管理のレベルもあらわしています。管理を実施するための大切な条件は、情報の整理・整頓ができていないか否か、ということがあげられます。管理に必要な情報がすぐに取り出せる、分かり易い状態に表示されている、などの状態に徹底できていることが必要なのです。したがって、5 S の状態が管理のレベルをあらわしているのです。



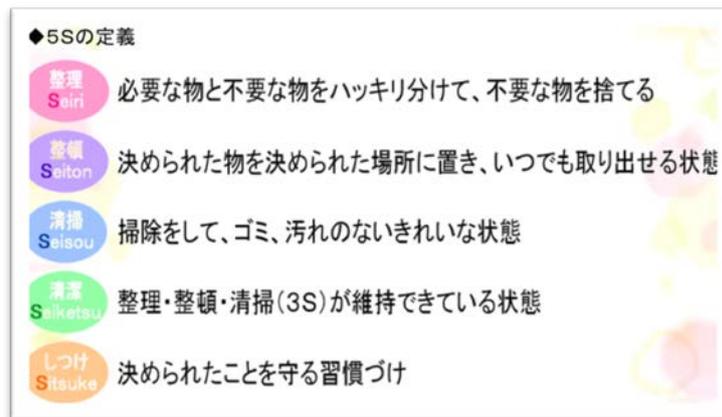
◆5 S は習慣化し、定着化させることが大切

5 S は習慣化し、定着化して本物です。短期的な瞬間風速での5 S では、5 S を実施しているとは言えません。習慣化しているとは、どんな面倒なことでも、そのことを実施しなければ「落ち着かない」「なんとなく不自然である」というレベルになっている状態を言います。習慣化することによって5 S は定着化します。



◆5Sは全員参加と率先垂範が基本

5Sを成功させるためには全社運動としての盛り上がりが必要です。全社運動としての盛り上がりには「全員参加」と「率先垂範」が重要になります。とくに、管理・監督者や5Sリーダーの率先垂範が重要になります。率先垂範とは、本人が他の人の模範となるような行動を自ら進んで実行することです。これができなければ、他のメンバーはしらけてしまい、全員参加も期待できないものになります。



◆5Sの定義

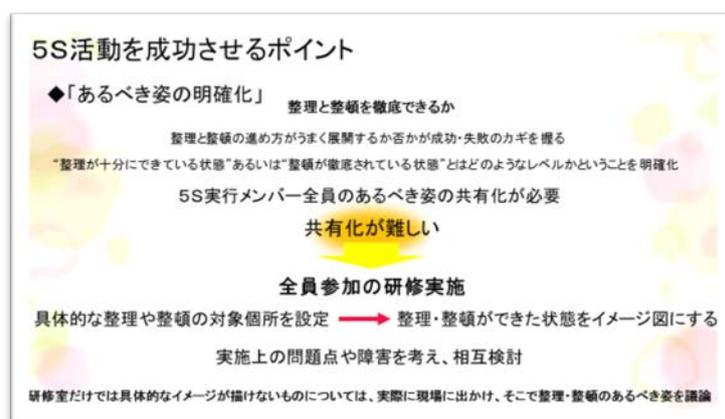
5Sの定義は5Sの意味を正しく理解する上で大切なことです。5Sの定義を簡潔に解説しておきます。この定義は是非とも記憶してほしいと思います。

項目	内容
整理	必要な物と不要な物を分け、不要な物を捨てる
整頓	必要な物がすぐに取り出せるように置き場所、置き方を決め、表示を確実に行う
清掃	掃除をしてゴミ、汚れのないきれいな状態にすると同時に細部まで点検すること
清潔	整理・整頓・清掃を徹底して実行し、汚れのないきれいな状態を維持すること
しつけ	決められたことを、決められたとおりに実行できるよう習慣づけること

◆期待される効果

5Sの効果	1. 仕事のムダの減少	<ul style="list-style-type: none"> ・物を探すムダの減少 ・仕掛品の管理による運搬のムダの減少 ・指示の徹底によるムダの減少
	2. 品質のムダの減少	<ul style="list-style-type: none"> ・材料間違いのムダの減少 ・図面、仕様書管理によるムダの減少 ・クレーム対応のムダ減少
	3. 安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・通路の確保による安全 ・表示の徹底による安全 ・しつけの徹底による安全作業
	4. 納期の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・情報整理による指示の明確化 ・現品管理の徹底による統制の向上 ・工程の管理による督促の徹底
	5. モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・しつけによる時間管理の徹底 ・しつけによる服装の徹底 ・しつけによるあいさつの徹底
	6. 営業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・5Sによるお客様への信頼の向上

◆5Sに期待される効果は、代表的なものとして次に示すような項目が考えられます。



5S活動を成功させるポイント

◆「あるべき姿の明確化」

5S活動が成功するか失敗するかのポイントの一つが整理と整頓を徹底できるかということになります。まず、整理と整頓の進め方がうまく展開するか否かが成功・失敗のカギを握ることになります。なかでも大切なことは、“整理が十分にできている状態”あるいは“整頓が徹底されている状態”とはどのようなレベルかということをも明確化することです。そして、5S実行メンバー全員のあるべき姿の共有化が必要なのです。しかし、この共有化が難しいものなのです。

そのためには、全員参加の研修実施ということが必要です。研修では具体的な整理や整頓の対象箇所を設定し、整理・整頓ができた状態をイメージ図にし、その実施上の問題点や障害を考え、相互検討をします。研修室だけでは具体的なイメージが描けないものについては、実際に現場に出かけ、そこで整理・整頓のあるべき姿を議論します。